

意見交換②

～計画骨子案について～



1 計画策定における視点

計画の背景

① 未来技術の進展

- ICTやAI、ロボット等の未来技術の進展が著しい
- あらゆる場面でインターネットに繋がる時代がすぐそこまで
- 「データ」が新時代のガソリンと言われ、データの利活用を前提にした仕組みづくりが重要

② 北海道の課題

- 人口減少・少子高齢化の影響による課題が深刻化（地域交通・物流の衰退、人手不足、医療・教育環境の低下等）
- 大雨、洪水や地震など自然災害による被害が頻発（東日本大震災、北海道胆振東部地震等）

10年後の北海道の未来社会を描いた「北海道Society5.0構想」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の社会的影響大

新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行を端緒とする非接触勧奨による遠隔診療、遠隔授業、テレワークの必要性
- 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症により明確となった官民含めたデジタル化の遅れ

「北海道Society5.0」の実現

- 変化に対応するため、「北海道Society5.0構想」で描いた未来社会（北海道Society5.0）の実現が急務
- データを利活用する上で公開と連携という2点がより重要度を増している

- 構想で描いた10年後の未来社会が新型コロナウイルス感染症の影響で急速に近づいており、コロナ後の社会（Postコロナ）では、さらに社会が変わっていることが予想される。
- 直近の対応として取り組まなければならないことが、各分野において明確になってきているのではないか。

2 「北海道Society5.0」の実現に向けた計画全体のイメージ 2

基本理念：『未来技術を活用した活力あふれる北海道の実現』

1 【暮らし】～未来技術を活用して実現する豊かな生活

北海道型MaaSの展開、オンライン診療・服薬指導・健康相談、除雪車の自動化、データに基づく災害対応、遠隔・オンライン教育、インフラ管理の最適化

2 【産業】～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

スマート農林水産業、多様な事業者（大企業、中小企業、スタートアップ、地場事業者など）の連携によるイノベーション

3 【行政】～未来技術を前提とした仕組みづくり

道民目線での行政手続のオンライン化、マイナンバーカードの利活用、旧態依然の制度・慣行の見直し

4 【データの利活用】～データの共有と活用の仕組みづくり

オープンデータ、データ連携（オープンAPI）、データサイエンティスト

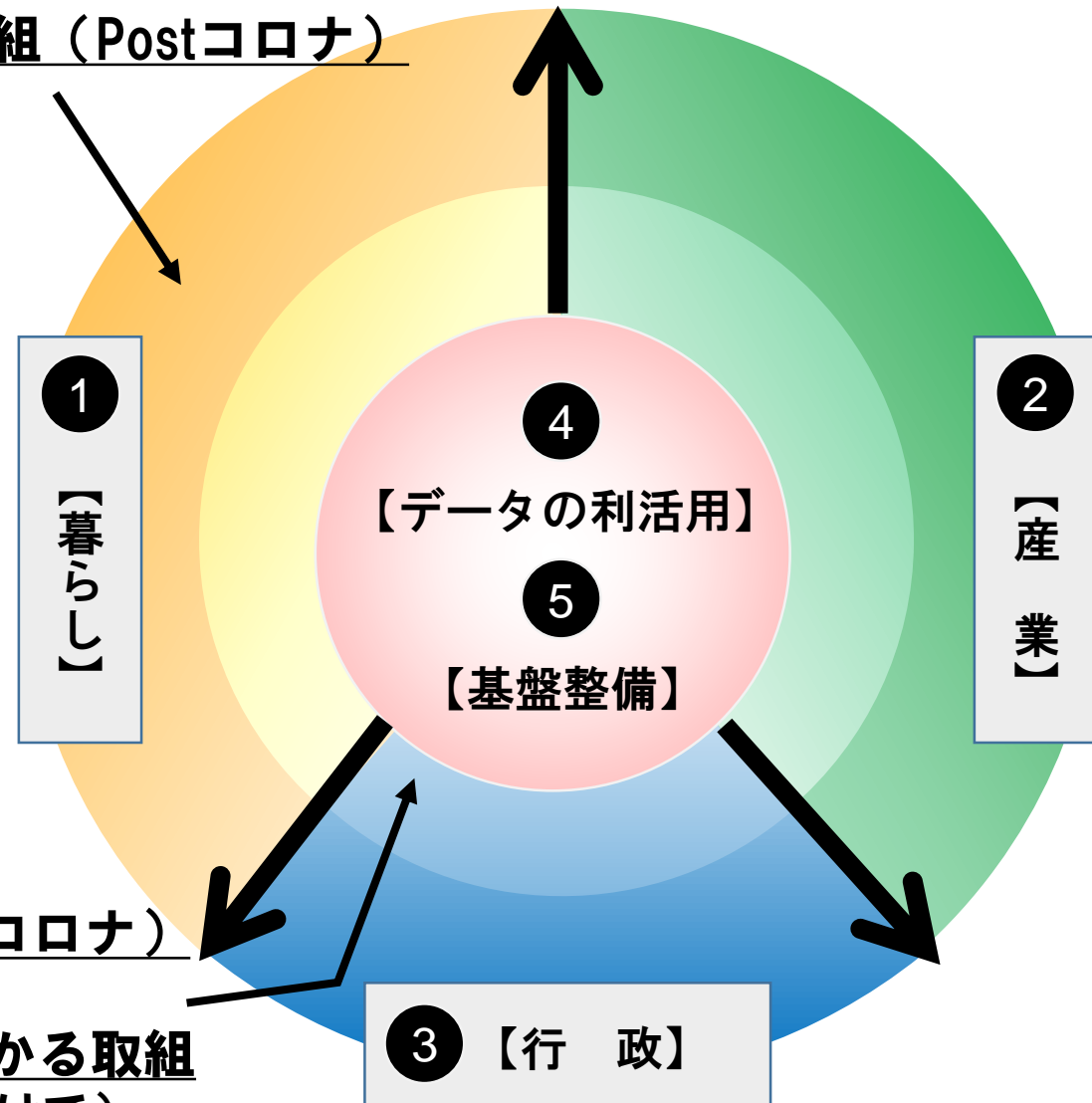
5 【基盤整備】～道民がデータを使いこなす社会基盤づくり

5G、ローカル5G、ブロードバンド環境整備、サイバーセキュリティ対策、人材育成

中長期的取組（Postコロナ）

短期的取組（Withコロナ）

実装まで時間が掛かる取組 （Postコロナに向けて）



3 意見交換の視点

「北海道Society5.0」の実現に向けて、Withコロナ、Postコロナという視点も交えながら北海道の未来社会のグランドデザインを描きたいと考えている。

1

計画の柱について

～①「暮らし」、②「産業」、③「行政」、④「データの利活用」、⑤「基盤整備」～

2

喫緊に取り組むべきことと中長期的に取り組むべきことの両方の視点での対応について

3

各領域において期待される姿について

～「暮らし」、「産業」、「行政」で望まれる未来の検討～
～未来を実現する上で必要となる技術や制度などに関する検討～

※ 各委員の専門領域も交えながら、ご自由にご発言、ご議論ください。